

テーマ：多文化の共生 対象：地域住民（日本語学習支援に興味がある方） 主催：尾道市

# G-④国際理解講座「日本語学習支援ボランティア研修会」

地域を学ぶ		地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	--	---------	---	-------	---

## 1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
10月上旬	電話・メール	○おのみち日本語教室から、現在の課題等の聞き取り ・「新しくボランティアを始めた支援者向けに、心構えや教え方を扱ってほしい」
10月下旬～11月上旬	メール	○聞き取り内容の共有及び相談 ・（公財）ひろしま国際センターと聞き取り内容を踏まえて相談を行う。 ・昨年までの内容も踏まえ、今年の学習目標と講座の形式を決定。
11月中旬	電話・メール	・外国人ゲスト募集のため、日本語教室の生徒の方への声かけを依頼。4名が集まる。
11月22日（火） 18:30～18:50	尾道市総合福祉センター	○外国人ゲストへの事前説明とアイスブレイク ・自己紹介とインタビューに向けてのお願い
11月22日（火） 19:00～20:30	尾道市総合福祉センター	○【講座開始】外国人市民の「声」を聴く ・講義「個人の声を聴く（話しやすい雰囲気作り）」 ・グループワーク（インタビュー）「〇〇さんってどんな人？」「一緒にできそうなことを考えよう」 ・発表「〇〇さんってこんな人！」 ・総括「それぞれの人に必要な日本語」



対象	地域住民（外国人とのコミュニケーションに興味がある人、日本語学習支援をしている人、これから支援を始めたいと考えている人）
経費	参加費：無料 講師謝金：27,060円，外国人ゲスト用お茶（ペットボトル）
連携先	おのみち日本語教室，（公財）ひろしま国際センター

問合せ先	尾道市教育委員会 生涯学習課 〒722-8501 尾道市久保一丁目 15番1号 教育会館 3F 電話：0848-20-7444 ファクシミリ：0848-37-0233
------	---

## 2 講座設定の理由（学習の目的）

- 尾道市では、観光で訪れるだけでなく、技能実習生としての外国人市民も増えている。日本語学習支援の需要が増す中で、地域の日本語教室を支えるボランティアの方に、日本語学習支援について見つめ直してもらう機会を作るとともに、興味はあるがボランティアに参加していない方の入口となれるよう、基本的な心構えを考える講座を設定した。

## 3 学習目標

- 学習者と対等な立場で、安心できる状態で対話し、伝えたいことを引き出す技術を身に付ける。
- 日本語を教える側と習う側という上下の関係性とならないよう、個人に向き合い、相手がどのような日本語を必要としているのかを考える。

## 4 事前に必要な知識や準備物

- （公財）ひろしま国際センターに講師を依頼する。（犬飼先生）
- 会場を予約する。
- 事前におのみち日本語教室に、現在の課題や、学びたいことの聞き取りを行う。
- 講師の犬飼先生と講座の内容について相談する。

## 5 留意点

- 今回は、グループワークで外国人市民と直接会話をしてもらう形式とした。そのため、外国人ゲストとして、おのみち日本語教室に通う学習者の方に協力を依頼した。
- 外国人ゲストには、普段感じていることを隠さず喋ってもらうよう講座開始前にお願いした。対象者には、外国人ゲストが話しやすい雰囲気を作ること（意見が違ってても反論するのではなく、受け止めること）をグループワーク前の講義でお願いした。

## 6 成果

- グループワークでの外国人市民との会話を通して、上下関係ではなく対等な個人として接するという意識が参加者に強く根付いたと思う。実施後のアンケートには「コミュニケーションを取ることが双方の学びになることを知った」という意見もあった。
- 「外国語が出来ないから不安だったが、楽しく話が出来て安心した」「初めて参加したが、楽しかったのでまた参加したい」などの意見もあり、日本語学習支援にこれから関わる人の入口にもなった。

## 7 課題

- 参加者と外国人ゲストの人数バランスが悪く時間がかかったため、次回もこの形式にするならば、外国人ゲストの人数を増やす必要がある。
- ここ数年は同会場で行っているが、アンケートに「向島でもやってほしい」などの市内他地区での開催を求める声もあった。

## 8 今後に向けて

- 会場近辺以外の地区でも日本語教室の取り組みを活性化させるために、別地区での開催も検討する。
- 御調地区で日本語教室を新しく開こうと考えている方が見学に来ており、今後はそちらとも連携して、研修会を企画していきたい。